

◆資源・環境対策事業

サンゴ礁生態系保全指導（その2）—オニヒトデ対策—

八重山農林水産振興センター 鹿熊信一郎

1. 目的

1970年代の初めに鳩間島周辺で始まったオニヒトデの大発生により、一部の海域を除いて八重山海域のサンゴはほぼ壊滅した。2009年現在、再びオニヒトデが大発生している。3個体以上見つければ異常発生とされる調査方法（約50m四方）で、2006年以降、発見数は指数関数的に増加し、2008年では平均7.2個体となった。2009年に入って、昼間にサンゴの表面で捕食行動をとるだけでなく、一列に前線を作ってサンゴを次々と食べながら進む海域も見られるようになった。サンゴ礁を基盤とする沿岸漁業、観光業にとって危機的な状況となっている。

オニヒトデ対策は、対症療法ではあるが駆除が中心となる。駆除の基本的な方針は、2001年頃から慶良間で実施されたように、「守るべき」「守りたい」「守れる」という基準のもとに、重点駆除海域を絞り込むことである。「守るべき」基準は、その海域に貴重なサンゴ群集が存在するか、他の海域への幼生供給源となるか、等で判定される。「守りたい」基準は、重要なダイビングポイントや漁場など、経済的な理由で判定される。「守れる」基準は、オニヒトデ駆除が長期間にわたり持続的に実施しなければ意味がないことから、港からの距離、冬季の海象などで判定される。

本課題は、八重山地域における重点駆除海域を効果的に選定することを目的とする。

2. 材料及び方法

平成21年度に始まった水産庁事業：環境・生態系保全活動支援事業は、水産業・漁村の多面的機能の発揮を目的とするものである。石垣

市はこの事業を導入し、八重山漁協の組合員・職員を構成員の主体とする石垣市サンゴ礁保全活動組織がオニヒトデ駆除を実施している。

現在の危機的な状況に対処するため、水産庁の事業だけでなく、環境省および沖縄県（内閣府事業）も駆除事業を実施した。これらの事業を総合的・効率的に実施するため、八重山オニヒトデ対策協議会を立ち上げ、最重要保全区域の選定などの方針を検討した。

3. 結果及び考察

2009年8月に第1回八重山オニヒトデ対策協議会を開催した。会長は八重山漁協青年部長、副会長は筆者が務めることになった。協議会の主な役割は、図1に示したように、予算の出所にかかわらず優先してオニヒトデを駆除する海域の選定方針を決めることである。協議の結果、それぞれの事業で石西礁湖（石垣島と西表島の間にある日本最大のサンゴ礁海域）3海域、石垣島北3海域、西表島北3海域を選定した（図2）。3つの事業ともに方針に基づき駆除活動を開始している。

11月に第2回、2月に第3回協議会を開き、重点海域方針を若干変更した。

4. 今後の課題

八重山におけるオニヒトデの大発生は、少なくとも今後数年間は続くと考えられるため、駆除は継続しなければならない。

2006年に組織された石西礁湖自然再生協議会では、サンゴ礁保全のための基金を設置して募金を集めており、これを利用したオニヒトデ駆除を計画している。

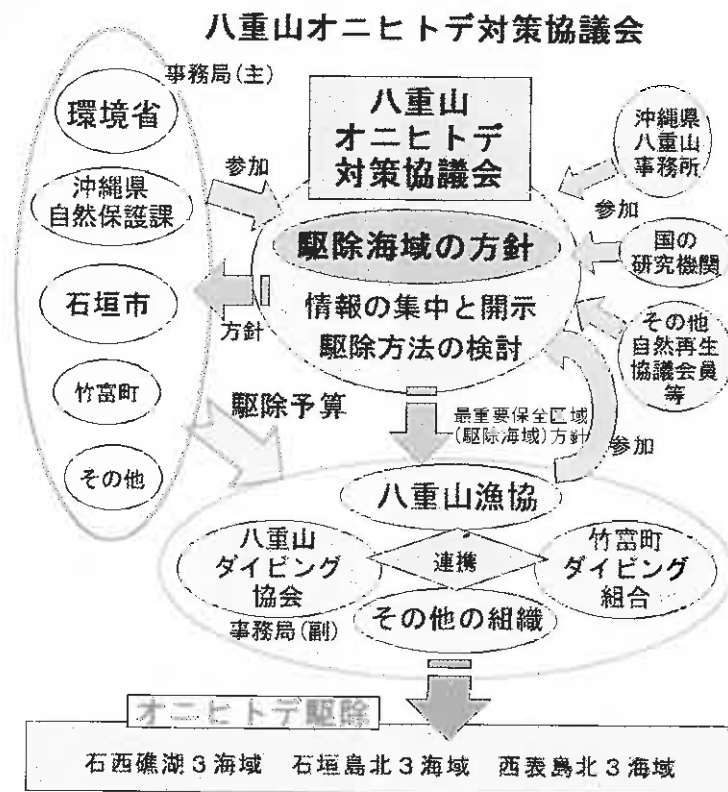
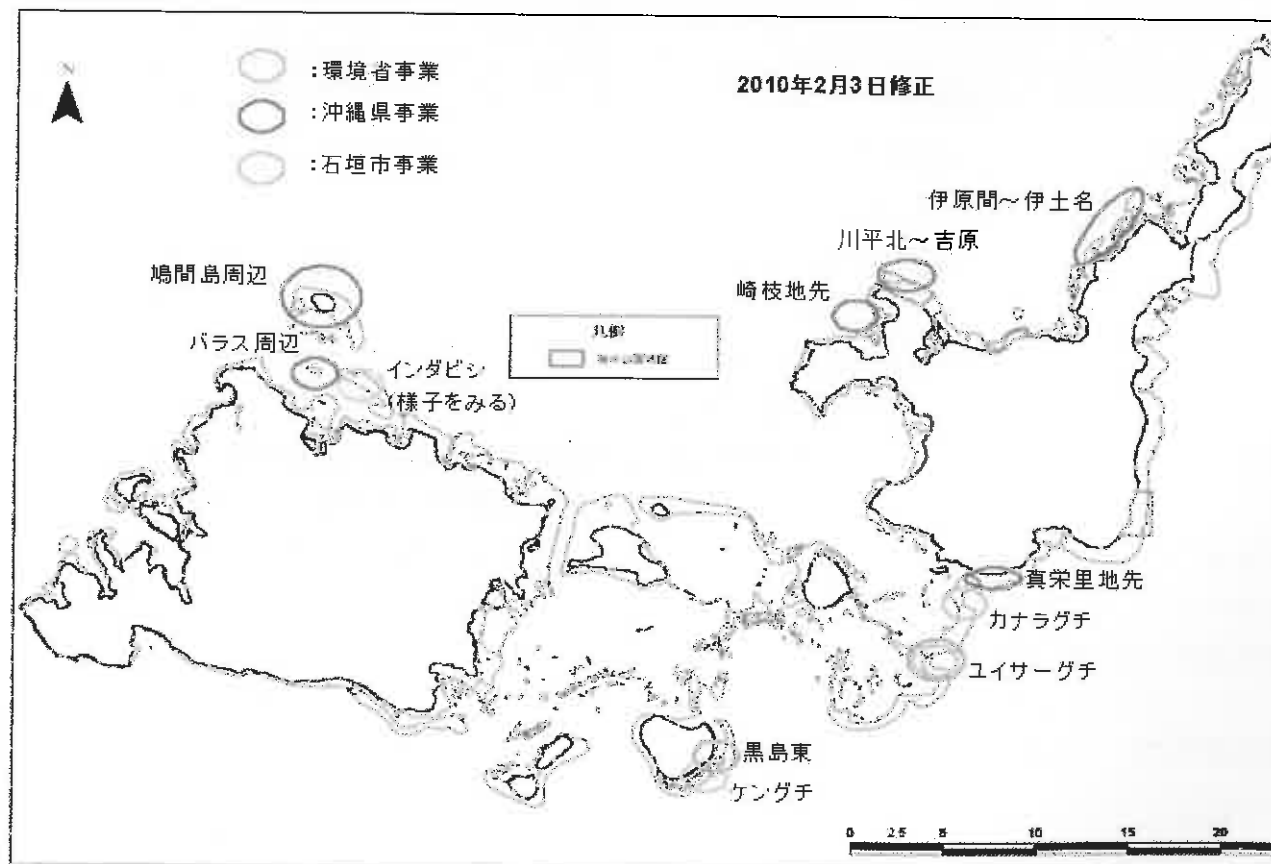
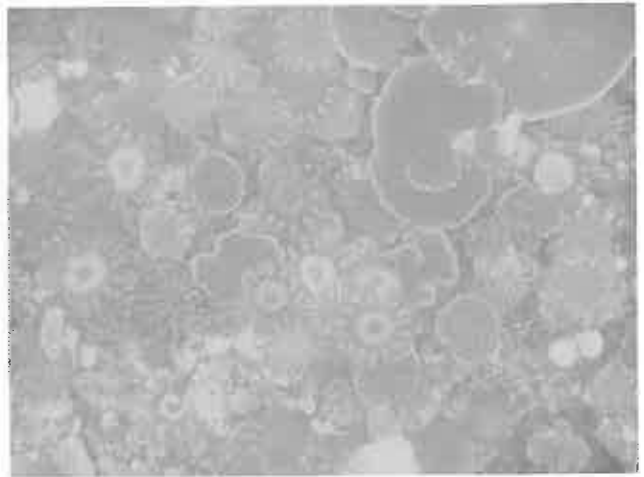


図1 八重山オニヒトデ対策協議会の役割





オニヒトデの食害を受けたサンゴ



高密度に分布するオニヒトデ



オニヒトデを1個体ずつ駆除



駆除したオニヒトデを計数後、処分